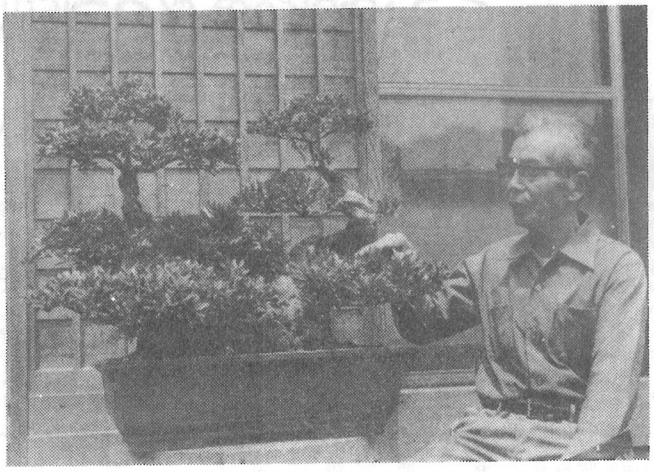
町民のひろば

自慢われこれ ⑲ さつき

小関一さん（坂田）



咲き終った後の芽つみと、植えかえの時期を逃さないことが良い花を咲かせるコツ――

さつき作りを始めて四十年。小さい時から盆栽が好きで、いろいろなものを手がけたそうだが〝木も花も鑑賞できる〟さつきに最も魅力を感じたという。

鉢数の多いなかで、ひときわ目をひくのは樹齢二百年、〝さつきの元祖〟といわれる大盃（おおさかずき・写真）で、幹の太さや枝ぶりのよさは他の鉢物を圧倒する。

盆栽が子や孫のようにかわいいという小関さんは、自慢のさつきについて「植えかえや消毒等の管理には苦労するが、時期になっていい花を咲かせた時は何とも言えない」と語っていた。

夕焼け空の橋の上で

海保利加（上塚小六年）

昭和三十年頃までの栗山川は、川底に光の輪が映ったり、泳ぐ魚のかげが走ったり、うろこがきらきら光るのが見えたりするほど、すきとおってきれいだったと父は話してくれました。まるでゆめみたいな話です。

どうして今のように、よごれてしまったのでしょうか。わたしは、多くの人が何の考えもなしに平気で、きたない物をすてるからだと思いました。

父に相談して調べてみました。

二十年前頃から、農業や工業のやり方がいろいろの仕事を能率的にやっていくしくみに変わり、機械や化学薬品が多く使われるようになりました。家庭のくらしも電化され、洗ざいなど化学用品も目立ってふえてきました。生活用品も何一つ不自由のないほど豊富になりました。それにつれて、家庭からでるよごれた水、牛や豚のし尿のたれ流し、死んだ豚や家庭から出るゴミの投げすてなどが多くなり、以前は泳げるほどきれいだった川がすっかり汚染されてしまったのです。

栗山川水質検査結果表（対策協議会）によると、屋形橋で調べた水は、溶存酸素、化学的酸素要求量、浮遊物質、大腸菌群など、どれを見ても基準以上で、よごれ、にごり、くさりなどがひどいことがわかります。

この栗山川の水が水道の水に使われていると知り、わたしはびっくりしてしまいました。この水を浄化、消毒して上水道として使うといっても何だか心配です。それに自家水道はよけいに気持ちが悪くなってきます。稲や作物、お魚などもこの川の影響を受けています。

栗山川は、昔からわたしたちになじみ、大事な役割を果たしてきました。この川をきれいにし、健康で明るい人間らしい生活をとりもどすのが、町に住む人々の課題です。一人一人の努力によって、栗山川が昔のように清らかな豊かな川になった時、ほんとうのふるさと水上公園になるのです。

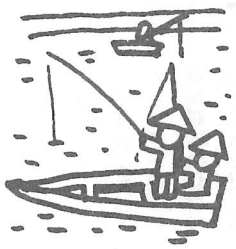
人間は、自然の恵みを充分にうける自然があってこそ栄えてきました。人間と自然と生物が仲よく助け合って生きていくことのむずかしさと大切さを思わずにはいられません。この川の歴史の中で今一番悲しいことが進みつつあるのだと思います。

よごさないようにするにはどうすればよいか、社会科の勉強で友だちと話し合いました。

○排水の基準を高くし、守るように注意する。

○よごれをつくるもとを改善するように呼びかける。

○し尿処理は捨てることではなく、①肥料としてうまく使う。②処理するものをつくり、手際よく始末する。

汚染から川を守るためには、もっとひとりひとりが自分のこととして真剣に考え、おっくうがらないで、足もとのことから実行することが根本です。赤とんぼが水面をかすめていく。夕焼け空の橋からいつまでも父とながめていた。川のこれからを思いながら――。

（栗山川浄化啓発作品集から）